

代相傳證文等之旨、彌可被全直務之由所被仰下也。仍執達如件。

文明十四年九月十六日

(布施英基)
下野守 在判
(飯尾清房)
加賀守 在判

中院家雜掌

九月廿四日。幕府、加賀守護富樫政親等をして、山城祇園社領河北郡輕賀野保の押妨人を退け、社家雜掌に之を交附せしむ。

【祇園社記】

一〇一三

祇園社領加賀國輕賀野保事、度々御成敗之處未事行云々。太不可然。所詮不日退押妨人、可被沙汰付社家雜掌之由、被仰出候也。仍執達如件。

文明十四年九月廿四日

(布施)
英 基 在判
(飯尾)
元 連 在判

富樫次郎殿

(輕賀野は文明十三年十一月九日の文書の刈野にし

て、今の狩鹿野なり。)

【祇園社記】

一〇一四

祇園社領加賀國輕賀野保事、度々御成敗之處未事行云々。太不可然。所詮不日退押妨人、可被沙汰付社家雜掌之由、被仰出候也。仍執達如件。

文明十四年九月廿四日

英 基 在判
元 連 在判

槻橋近江守殿

(槻橋近江守は富樫政親の被官なり。)

【八坂神社文書】 山城

一〇一五

(編纂書)
公方御奉書案

祇園社領加州眞野輕賀村事、去文明十三年十一月九日富樫次郎掠給奉書之段、無其謂云々。太不可然。早沙汰居社家之雜掌、如先々可令全所務之由被仰出候也。尚以無承引者、可被處其罪者也。仍執達如件。

月 日

光 德 寺
(阿北)
加北郡一揆中

文明十五年

癸卯 紀元二一四三

十月晦日。眞淨寺了康、鳳至郡總持寺の造營料を借用す。

【總持寺文書】 鳳至郡

一〇一六

諸岳山總持禪寺造營錢之事

合參拾貫文也

右件料足者、來歲甲辰八月十五日已前仁、就本庵可渡申候。聊不可有怠慢之義者也。仍爲後日借狀如件。

眞淨寺

文明十五年卯十月晦日

僧了康 在判

如意庵 侍衣禪師

文明十六年

甲辰 紀元二一四四

四月廿三日。伊勢貞宗、畠山義統の被官遊佐美作守をして、觀世大夫下向するを以て爲に周旋せしむ。

【諸狀案文】

一〇一七

就觀世大夫下向之儀、被成遣奉書候。任被仰出候旨、勸進猿樂等事宜可有御下知候。依窮困罷下之間、每事可然之樣別而可被加御扶助事肝要候之由、可得御意候。

(文明十六年) 四月廿三日

遊佐美作守殿 能州

(諸狀案文は、伊勢貞宗の書狀案なり。遊佐美作守の諱は知る能はず。)

六月十九日。伊勢貞宗、遊佐美作守をして、その所領鳳至郡町野莊の還付に盡力せしむ。

【諸狀案文】

一〇一八

(編纂書(勢)伊勢貞宗) 州御狀案文明十六、六、十九

知行分町野庄之事、連々以同名上野介申入候之間、定自